

# 京都・長岡京跡(1)

## 1 所在地

京都府向日市鶏冠井町草田・鶏冠井町西金村・鶏冠井町小深田・鶏冠井町山科・鶏冠井町十相・上植野町南淀井

## 2 調査期間

左京二条二坊六町 一九八五年(昭60)二月、左京二条三坊一町・南一条三坊四町 一九八六年九月～十一月、左京二条二坊十五町 一九八六年一〇月～十二月、左京二条二坊五町・東二坊坊間小路・二条第二小路交差点 一九八六年十二月、左京南一条二坊十四町 一九八六年十二月～一九



(京都西南部)

## 3 発掘機関

向日市教育委員会  
八七年一月、左京四条二坊十一町 一九八七年二月～三月

## 4 調査担当者

国下多美樹・渡辺 博・山中 章・松崎俊郎

## 5 遺跡の種類

都城跡

## 6 遺跡の時代

八世紀末

## 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

一九八六年度に長岡京跡で木簡が出土した調査は計八件で、左京七件、右京一件である。左京は向日市域の第一五九次・一六二次・一六三次・一六六次・一七〇次(以上は向日市教育委員会)・一五一次(財京都府埋蔵文化財調査研究センター)と京都市域の一六四次(財京都市埋蔵文化財研究所)、右京は長岡京市域の第二三九次(財長岡京市埋蔵文化財センター)の各調査である。

本稿では向日市教育委員会が担当した五調査に、昨年度整理未了であった一調査を加えて報告する。

## 一 左京二条二坊六町(左京第八五六次立会調査7 ANEKS)

本調査は、水路改修に伴う立会調査として実施したものである。調査地は左京二条二坊六町の南西隅に相当し、六町西辺の南北溝SD五二〇二、東二坊第一小路東側溝SD五二〇一を検出した。溝SD五二〇二は、幅一・七五m、深さ〇・四二mを測り、長さ一・一五m分を検出した。木簡約四四〇点のほとんどは、この僅か二m余

りの溝中より出土した。延暦七年(七八八)～同十一年(七九二)の紀年木簡を含む。伴出遺物には、土師器・須恵器の土器類、人形・墨描きの鳥形・曲物等の木製品、刀子があり、墨書土器も少数出土している。

溝SD五二〇二・五二〇一は、既に一九八〇年の立会調査によって今回検出部分の南側を検出しており、SD五二〇二からはやはり大量の木簡が出土している。内容は、地子米荷札、官人の検収署名札が主要なもので、他に造営関係の木簡を含む。

左京二条二坊六町は、これまでに七回調査が行われているが、今回は南西隅まで太政官厨家関係の遺物で占められていることを実証した調査であった。

## 二 左京二条三坊一町・南一条三坊四町(左京第一五九次調査7A NENR-12地区)

調査地は南一条大路と東三坊第一小路の交差点を含む左京二条三坊一町(北東隅)および南一条三坊四町(南東隅)に相当する。条坊に関連する遺構として、南一条大路南北両側溝SD一五九二・SD一五九〇五、東三坊第一小路西側溝SD一五九一五を検出した。また、二条三坊一町の宅地内において、溝二条、柵列一条、掘立柱建物一棟、井戸一基、南一条三坊四町において溝三条、井戸一基をそれぞれ検出した。南一条大路は路面幅二三・四mを測り大路級の道路であることが再確認された。なお、二条三坊一町については、

これまでの調査で「車持氏」の宅地跡と推定されている。

木簡は南一条大路北側溝SD一五九二および同南側溝SD一五九〇五より各一点出土した。いずれも断簡である。共伴遺物には、瓦、木製品、各種の土器類等があるが量的には少ない。墨書土器はおもに南一条三坊四町域から出土し、「大炊」「炊」や「難波津の歌」の習書の一部と推測される「□尔波」等があり、注目される。

三 左京二条二坊十五町(左京第一六二次調査7ANEKDI-1地区)  
調査地は、標高一二m前後の沖積地に位置する。長岡京では、左京二条二坊十五町、二条条間大路北側溝と東二坊大路西側溝の交差点に相当する。調査の結果検出した長岡京期の遺構には、東西溝二条、南北溝一条、しがらみ一基、杭列五基等がある。東西溝二条は、二条条間大路北側溝であり、前期・後期でつけ替えられていることが判明した。後期の北側溝の規模は、最大幅八m前後、深さ〇・八mを測る。長岡京条坊側溝のうち、これほど大規模な溝が検出されたのは初めてである。

木簡は、東二坊大路西側溝SD一六二〇一より一点、後期の二条条間大路北側溝SD一六二〇二より四点、前期北側溝内のしがらみ状杭列SX一六二〇八より一点の計六点出土した。ほとんどが断簡である。共伴遺物には、「㊥」の文字刻印瓦の他、土器類、墨書人面土器・土馬・人形などの祭祀遺物、鉄鏃・獣骨等がある。  
本調査地の特徴として、次の四点をあげることができる。

(7) 長岡京直前の自然河川を利用して護岸し、条坊側溝が営まれている。

(イ) 条坊側溝が付け替えられている。

(ウ) 条坊側溝が大規模で運河的性格を呈している。

(エ) 後期北側溝の交差点部分から、一体分の馬骨と、馬骨を取り囲むように据えられた墨書人面土器・土馬・鉄鏃など一括した祭祀遺物が出土している。

現在、整理途中であるため詳細は今後の課題であるが、長岡京の条坊のあり方、祭祀について重要な遺構であると考えられる。

四、左京二条二坊五町・東二坊坊間小路・二条第二小路交差点

(左京第一六三次調査7ANEYN12地区)

調査地は、東二坊坊間小路と二条第二小路の交差点及び東二坊坊間小路の路面、左京二条二坊五町の東辺の一部で行った。その結果長岡京関係では両小路の西側溝及び南北両側溝を検出した。木簡は二条第二小路の北側溝SD一六三三三から七点出土した。同溝内からは、他に土器類では土師器・須恵器の食器や煮沸具、墨書人面土器・土馬等の祭祀具、「□節」と記した墨書土器(須恵器杯)、木製品では、曲物・箸・杓子・墨描きのある刀形等が出土している。

本調査地は、五百余点の木簡を出土した左京二条二坊六町―推定太政官厨家跡―の南東隅に位置する。溝SD一六三三三は六町の南を画する溝であり、出土物が同町内から投棄された可能性は高い。

五 左京南一条二坊十四町(左京第一六六次調査7ANEJS16地区)

調査地は、標高一三m前後の沖積地に位置する。調査は、道路改良工事に伴う事前調査として、南北一m、東西二四mの調査区を設け主に条坊側溝の検出を目的として実施した。調査の結果検出した遺構には、長岡京期の南北溝一条、時期不明の柱穴六基等がある。

木簡は、東二坊第二小路東側溝SD一六六〇四の底面より一点出土した。同溝は幅〇・九m、深さ〇・三〇・五mを測る。共伴遺物には、土師器の杯・皿・碗、須恵器の杯A、木製品の箸等がある。

六 左京四条二坊十一町(左京第一七〇次調査7ANFMI)

本調査地は、長岡京左京四条二坊十一町の北西部と東二坊坊間小路に相当する。

今回の発掘調査で検出した長岡京期の主要遺構は、前期・後期の二時期に分かれる。前期の遺構としては、二間×三間の東西棟の掘立柱建物SB一七〇二二と、建物より後出する溝群を検出した。溝群の性格は不明である。後期の遺構としては、東二坊坊間小路の側溝SD一七〇二〇、土壙SK一七〇二一、自然流路SD一七〇一九を検出した。側溝SD一七〇二〇からは、正倉院にも例を見ない宝相華文の毛彫りと魚々子を配した金銅製鏤子と、獣骨が出土した。

土壙SK一七〇二一からは横櫓が出土した。

木簡は、町内の自然流路SD一七〇一九より曲物、鉄鏃等と共に

削屑二点が出土した。

また、包含層より「龍」と記載された墨書土器が出土している。

# 8 木簡の釈文・内容

一 左京一条二坊六町

六町西辺南北溝SD五二〇二

- |     |                             |                     |      |   |                  |
|-----|-----------------------------|---------------------|------|---|------------------|
| (1) | 〔造カ〕<br>□内所□□…□□瓦□          | (90+57)×(8)×(2) 081 | (11) | 「八月十七日福□                                | (87)×8×4 019     |
| (2) | 「間食貳升□人二人料 廿三日清成」           | 275×21×6 011 *      | (12) | ×廿二日収 福主 八月廿日収×                         | (107)×(16)×4 081 |
| (3) | 〔東宮カ〕<br>□□□□□一斗 五□<br>毛 □□ | (121)×29×5 081      | (13) | ・「伊与国九月四日猪万呂<br>『猪万呂』                   | (134)×16×2 019 * |
| (4) | ・「少進〔啓カ〕<br>□□飯参料□□×        | (93)×(8)×3 081      | (14) | ・×□郡綱丁□□□□<br>〔四カ〕〔猪万呂カ〕<br>・×廿□日『秦□□□』 | (83)×(13)×2 081  |
| (5) | ×□三<br>功日『十文』               | (77)×26×2 039       | (15) | ・「越前国少郷戸主秦豊足」<br>・「十年四月二日『福万呂』」         | 197×19×2 051     |
| (6) | 〔勾カ〕<br>□大伴乃福主」             | 89×11.5×4 011       | (16) | ・「美作国苦田郡能鶏×<br>『□□□』                    | (173)×23×5 039   |
| (7) | 「七月八日福主」                    | 100×(9)×4 081       |      |   |                  |
|     |                             |                     | (8)  | 七月十七日福×                                 | (61)×(9)×2.5 081 |
|     |                             |                     | (9)  | 「七月十八日福主」                               | 110×19×4 011 *   |
|     |                             |                     | (10) | ・「七月十□〔日カ〕福主」<br>・「『為為為□』」              | 116×20×2 011     |

- (17) 「苦田郡香美白米」  
97×14.5×5 011
- (18) 「<sup>〔智カ〕</sup>×<sup>〔智カ〕</sup>郡糯米替五斗」  
(103)×22×2 051
- (19) ・「大乃年料米五斗」  
・<sup>〔カ〕</sup> <sup>〔カ〕</sup> <sup>〔カ〕</sup>  
85×18×2 011
- (20) 「<sup>〔カ〕</sup>乃部白米五斗」  
69×14×2 011 \*
- (21) 「<sup>〔カ〕</sup>乃部白米五斗」  
72×(12)×3 081 \*
- (22) 「<sup>〔カ〕</sup>乃部白米五斗」  
84×14×5 011
- (23) 「<sup>〔カ〕</sup>乃部<sup>〔カ〕</sup>白米五斗」  
69×14×4 011
- (24) 「越前国江沼郡米五斗」  
162×16×3 011 \*
- (25) ・「越前国大野郡大山郷物マ万呂」  
・「五斗四月七日」  
125×25×2 051 \*
- (26) ・「越前国大野郡大沼秦奥万呂米五斗」  
・「十年四月十日」  
189×23×4 051 \*
- (27) ・「越前国大野郡毛」  
・「十年四月十五日」  
(78)×14×3 019

- (28) ・「越前国足羽郡日理郷戸口」  
・「<sup>〔カ〕</sup>白米五斗九年十月八日」  
(105)×20×4 059
- (29) ・<sup>〔足カ〕</sup>羽郷<sup>〔カ〕</sup><sup>〔カ〕</sup><sup>〔カ〕</sup>  
・延暦九<sup>〔十カ〕</sup>月<sup>〔日カ〕</sup>  
(97)×(8)×4 051
- (30) ・「江下郷戸主生江乙甘米五斗」  
・「十一月四日」  
148×22×4 051 \*
- (31) ・「美作国吉田郡能鷄白米」  
・「<sup>〔カ〕</sup>美作国吉田郡香美郷白米」  
(173)×19×9.5 039
- (32) ・「<sup>〔カ〕</sup>美作国吉田郡香美郷白米」  
(140)×23×5 039 \*
- (33) ・「<sup>〔カ〕</sup>美作国勝田<sup>〔カ〕</sup>美郷白米五斗」  
・「<sup>〔カ〕</sup>否主」  
219×24×6 032
- (34) ・「<sup>〔カ〕</sup>美作国勝田郡鷹取郷白米五斗」  
(180)×22×2.5 033
- (35) ・<sup>〔美作カ〕</sup> <sup>〔カ〕</sup> <sup>〔カ〕</sup> <sup>〔カ〕</sup> ×  
・<sup>〔十一年カ〕</sup> <sup>〔カ〕</sup> <sup>〔カ〕</sup> ×  
(75)×(20)×3 039
- (36) ・「伊与国越智郡橘樹郷戸主他戸益万呂戸白米伍斗」  
214×28×4 031 \*
- (37) ・「伊与国越智郡朝倉村干縫乙万呂戸白米五斗」  
191×20×4 031

- (38) 「伊与国越智郡朝倉村物マ家公戸白米伍斗」  
171×21×3 031 \*
- (39) 「伊与国越智郡旦倉<sup>〔村カ〕</sup>」  
(38)×(18)×6 039
- (40) 「伊与国越智郡鴨郷地子白米五斗」182×16×5 031 \*
- (41) 「伊与国温泉郡橘子郷秦<sup>□</sup>富白米伍斗」  
172×21×4 031
- (42) 「伊与国和気郡姫原郷矢田マ<sup>□</sup>主褰白米五斗」  
173×19.5×2 051
- (43) 「伊与国野間郡<sup>□□□□□□□□□□</sup>〔郷カ〕広<sup>□</sup>白米伍斗」  
207×19×6 031
- (44) 「伊与国伊与郡石田郷白米五斗」  
・「<sup>□</sup> 葛木高<sup>□</sup>」  
(136)×24×4 039 \*
- (45) 「伊与国伊与郡<sup>□</sup>地子米五斗」  
・「<sup>□</sup> 里万呂」  
(99)×(11)×2 019
- (46) 「伊与国伊与郡岡田郷白米五斗」  
・「<sup>□</sup> 『成人』<sup>□</sup>」  
164×24×3 051
- (47) 「伊与国桑村郡津×」  
(71)×20×2 019
- (48) 「讃岐国三野郡余戸郷地子伍斗白」188×15×3 031 \*
- (49) 「讃岐国三野郡余戸郷白米五斗」  
(163)×19×2 031
- (50) 「讃岐国三野郡大野郷白米五×」  
(149)×17×3 039
- (51) 「讃岐<sup>□□□□</sup>〔野カ〕〔本山カ〕〔留カ〕人白米五×」  
(140)×24×4 031
- (52) 「讃岐国三野郡高野×」  
(140)×(8)×3 039
- (53) 「讃岐国三木郡高岡郷×」  
(108)×19×2.5 039
- (54) 「讃岐国<sup>□□□□□□□□□□</sup>〔山田カ〕郷<sup>□□□□□□□□□□</sup>〔斗カ〕」  
(171)×(7)×5 031
- (55) 「高谷郷地子米×」  
(113)×18.5×4 039
- (56) 「賀茂郡破塩二斗 七年料」  
(168)×25×2 039
- (57) 「速水尾張公吉戸白米五斗」  
・「<sup>□</sup>月十二日<sup>〔七カ〕</sup>」  
124×18×3 051
- (58) 「大友石吉白米五斗」  
180×25×4 051
- (59) 「神人安万呂麦五斗」  
(119)×19×4 019

(60) ・×戸主白香廻□□戸白米五斗

・延暦九年八月一日

(150)×(14)×2 059

(61) 「 $\vee$ 一斗五升」

185×31×4 033

二 左京二条三坊一町・南一条三坊四町

南一条大路北側溝SD一五九三二

(1) ・□□□□□□□□

〔七カ〕  
・□月十一日□□□□

(85)×(6)×7 081

三 左京二条二坊十五町

東二坊大路西側溝SD一六二〇一

(1) ・□□□□ 米五斗三升

・□□□□ □

(125)×17×5 051

二条条間大路北側溝SD一六二〇二

(2)

・〔飯カ〕  
・〔請〕□□□□□□

・□□□□□□□□

〔合カ〕□□□□□□

(212)×(16)×4 019

(3) 「 $\vee$ 鹿六〔廿カ〕□□」

65×20×4 033

(4) 「□塩柴

(133)×15×3 019

(5) □□□□□□

(75)×(13)×3 081

しがらみ状杭列SX一六二〇八

(6) 中 中 中 □□□

(8)×(189)×3 081

(2)は請飯文書、(3)(4)は物品付札、(1)は荷札と思われる。残存状態が悪く、奈良国立文化財研究所鬼頭清明氏の御好意で赤外線テレビによって積文を確認した。

四 左京二条二坊五町・東二坊坊間小路・二条第二小路交差点

二条第二小路北側溝SD一六三三三

(1) 「木工助高篠連□□□□

(137)×20×5 019

(2) 「豊宗□□□□□□

(46)×11×3 019

(3) □□□□□□□□

大 大 解 病 □ □ □ □ □ □ □ □ (18)×(218)×4 081

(1)も赤外線テレビによって確認した。『続日本紀』延暦九年三月丙午条に「木工助外従五位下高篠連廣浪」がみえる。

9 関係文献

- (1) □月今□ 091
- (2) □□□ 091

自然流路SD一七〇一九

六 左京四条二坊十一町

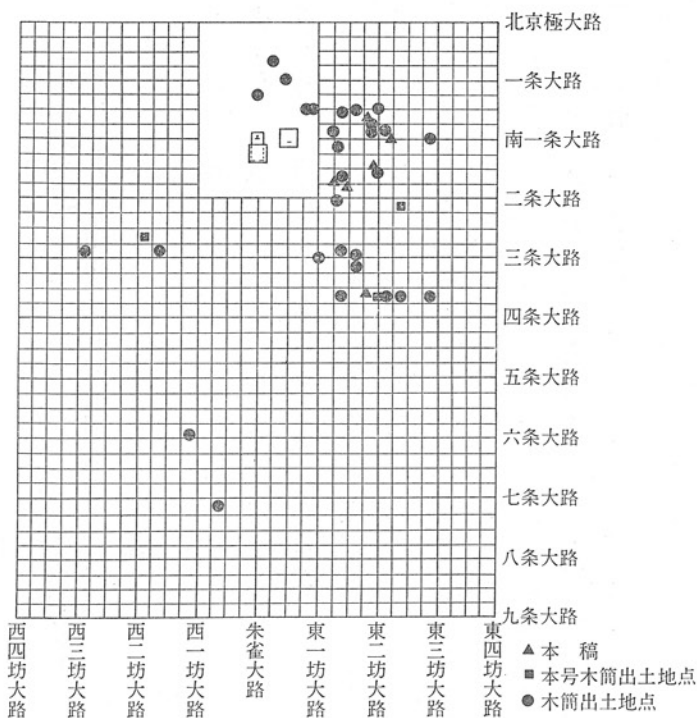
六度は六波羅蜜の意味であるので、仏事に使用する漆櫃や几帳等の調度類とその個数を記したものと推定される。表の「雑物」の上の文字は「調」か「納」かのいずれかと思われる。裏は習書であるが、美濃国席田郡を意識したものかもしれない。

- (1) ・「  
六度 □雑物柒櫃<sub>〔合カ〕</sub>  
□<sub>〔帳カ〕</sub>・□<sub>〔厩カ〕</sub>基<sub>〔厩カ〕</sub>積<sub>〔厩カ〕</sub>×  
・「美濃国濃濃濃<sub>〔厩カ〕</sub>□<sub>〔厩カ〕</sub> (165)×29×2 019

東二坊第二小路東側溝SD一六六〇四

(2) 豊宗氏は、左京二条二坊三町の溝SD八〇一八〇一（左京第八〇一八次立会調査）出土木簡に「豊宗千足」の例がある。今回は名前の部分の墨の残りから推測して別人と思われる。

五 左京南一条二坊十四町



松崎俊郎「長岡京跡左京第一七〇次発掘調査概要」（向日市教育委員会『向日市埋蔵文化財調査報告書「第二十一集」一九八七年』）

一 清水みき  
二 国下多美樹  
三 渡辺博  
四 山中章  
五 松崎俊郎  
六 二〇六の釈文は清水みきが担当した。